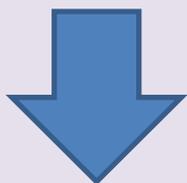


【全体概要】実証ほ場の微気象を観測・記録できる「環境モニタリングシステム」を導入し、産地に即した開花予測技術で摘らい作業等の早期スケジューリングにより効率化を図る。また、かきの重要病害である「カキ円星落葉病」について、園地より収集した積算気温並びに降雨状況データをもとに孢子飛散日を予測し、産地での防除適期の把握に生かす。同時に孢子トラップを設置し予測結果との検証を行い、その効果を明らかにする。

新品種・新技術等の概要

高齢化・後継者不在
労働力の不足

気象環境の変化



精度の高い
生育予測の実現

「環境モニタリングシステム」の導入



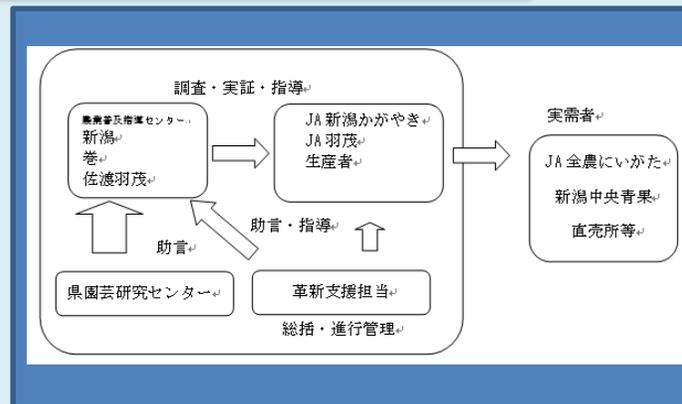
効率的な作業の実施
例えば
開花予測により、
摘らい作業のスケ
ジューリングや
防除計画の策定

加えて

かき円星病等の
重要病害虫の
発病予測に活用

定点カメラの設置
Webサイトで公開
・気象災害の把握
・生育ステージの確認
・市場等への情報発信
に活用

実施体制図



県の農業革新支援担当が中心となり、普及指導センター、生産者、試験研究機関、JAと連携し、事業の取組の調整・進行管理等を行う。産地の指導担当機関としては、新潟農業普及指導センター、巻農業普及指導センター及び佐渡農業普及指導センター羽茂分室が担う。

課題と今後の対応

■ 気象データを活用して4月27日に開花予測情報について各産地へ提供した。

■ 摘らい作業は満開14日前頃からの実施が目安となることから、5月13日頃からの提案され、産地への作業スケジュールとして提案した。実際の開花期は気温が予想よりも高温に推移したためやや早まる結果となったが、作業上問題はなく高精度が実証された。

■ かき円星病の孢子飛散予測は6月8～11日頃と予測され、それに合わせた防除スケジュールを計画して対応した。その後、発病もほとんど確認されず、効果的な防除が実施できた。

■ 病害虫発生予察活用マニュアル(暫定版)を作成し、次年度に向けてブラッシュアップする。

■ 定点カメラの画像データが1年分得られたため、WebサイトでのPRやその他の利用方法について産地と検討する。

表1 生育要期の比較(発芽・展葉は3/14、開花は4/27の予測値)

調査地点	項目	発芽期	展葉期	開花期	
				始め	盛り
巻	予測値	4月6日	4月12日	5月28日	5月31日
	実測値	4月5日	4月18日	5月26日	5月29日
羽茂	予測値	4月5日	4月16日	5月29日	5月31日
	実測値	4月7日	4月18日	5月26日	5月30日

主な取組内容

- 環境モニタリング機器でリアルタイムに気象データを取得
- 気象データを活用した開花予測情報の発信と精度の検証
- 開花期に合わせた作業スケジュールの提案と防除計画の作成
- 気象データを活用した「カキ円星落葉病」の孢子飛散予測情報の提供
- 孢子飛散調査により、予測の精度を検証
- 定点カメラを利用した情報発信の検討

